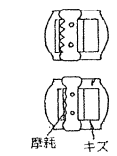
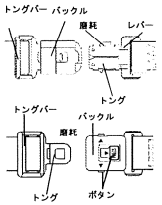
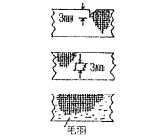
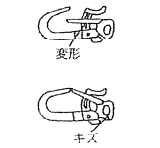
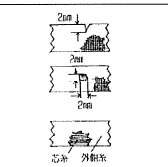
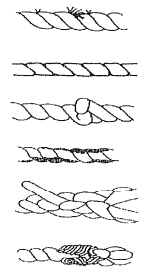
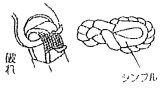
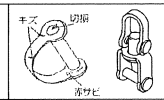
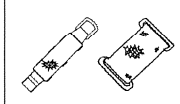
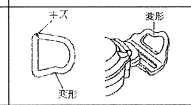
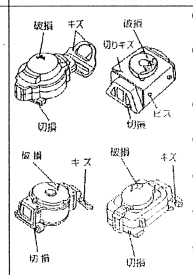
10. 日常の点検と廃棄基準

始業点検（使用前に毎回）、定期点検（毎月１回）を必ず実施してください。
１項目でも廃棄基準に達したものは直ちに使用を中止してください。

胴ベルト	スライド式バックル		●変形してベルトが締まらないもの ●かみ合わせ部の磨耗でベルトが緩むもの ●深さ１ミリ以上のキズがあるもの ●リベットの頭部が 1/2 以上減ったもの ●全体にさびが発生したもの
	ワンタッチ式バックル		●トングを差し込んだとき「カチッ」という音がしないもの ●解除操作してもトングが抜けないもの ●トングを差し込んだ時レバー・ボタンがロックされないもの ●著しい変形・磨耗した個所があるもの ●全体にさびが発生したもの ●トングバーがなくなったもの ●レバー・ボタンが動かないもの ●バックルの樹脂カバーが破損したもの
	ベルト		●3ミリ以上の損傷、焼損、擦り切れのあるもの ●薬品、塗料等の付着で固くなったものまたは溶けたもの ●先端金具が取れほつれたもの ●先端金具が曲がってバックルに通らないもの
フック・小型フック			●変形などによって外れ止め装置や安全装置が完全に開閉しないもの ●深さ１ミリ以上のキズがあるもの ●リベットの頭部が 1/2 以上減ったもの ●全体にさびが発生したもの ●バネが折損して外れ止め装置が完全に開閉しないもの
ロープ	平ロープ・平綱・伸王		●2ミリ以上の損傷、焼損、擦り切れのあるもの ●損傷、焼損、擦り切れ等で芯糸(薄黄色)が見えたもの ※平ロープ・伸王 ●著しく弓状に曲がったもの ●薬品、塗料等の付着で固くなったものまたは溶けたもの ●縫糸が１ヶ所以上切れたもの
	３つ打ち・８つ打ち		●７ヤーン以上の損傷、焼損、擦り切れのあるもの ●磨耗して棒状になったもの ●キンクまたは形くずれのあるもの ●薬品、塗料等の付着で固くなったもの又は溶けたもの ●さつま編みが抜けているもの
樹脂カバー・シンブル			●脱落しているもの ●磨耗して金具とロープが接しているもの
シャックル			●深さ１ミリ以上のキズがあるもの ●全体にさびが発生したもの ●リベットの頭部が 1/3 以上減ったもの
ショックアブソーバ			●カバーが破れ内部が露出しているもの ●大きな衝撃が加わり変形したもの
環類			●著しく変形したもの ●深さ１ミリ以上のキズがあるもの ●樹脂コーティングがはがれたもの ●全体にさびが発生したもの
リール			●平ロープの引出し・巻取りができないもの ●平ロープの引き出し速度に反応せずロックしないもの ※緊急ロック機構内蔵リール ●平ロープ引き出し口裏側のベルト通し部が破損したもの ●樹脂カバーが破損し内部の部品が見えているもの ●取付ビスが１本以上脱落したもの ●金具に １ミリ以上のキズがあるもの ●ビス・リベットの頭部が 1/2 以上減ったもの ●著しく変形したもの

11. 保守・保管と交換の目安

お求め頂いた墜落制止用器具の性能を維持し安全に作業して頂くために下記の日常の手入れと保管をしてください。

●日常の手入れと保管方法
1. 使用後は各部の汚れを良くふき取ってください。ただし、溶剤等は使用しないでください。
2. 金具などの可動部には時々注油してください。
3. 保管は日陰の乾燥した場所で下積にならないようにしてください。

●交換の目安（耐用期間）
使い方によっても異なりますが、使用開始年月からロープは２年、その他の部分は３年をめどに新しいものと交換してください。
ただしこの期間内でも「10. 日常の点検と廃棄基準」に従って点検し、廃棄基準に達したものは直ちに使用を中止してください。

●使用開始年月の記入
バックル取付部近くのラベルに使用開始年月を必ず記入してください。

12. 性能

部品名	規格	社内試験値
胴ベルト	15.0KN	24.5KN 以上
ロープ （伸王）	15.0KN	19.6(17)KN 以上
フック	11.5KN	12.7KN 以上
ﾊﾞｯｸﾙ連結部	8.0KN	8.8KN 以上

各部の強度は新品時の値（静荷重）です。
特にロープ、ベルト、縫糸等の繊維の強度はご使用状況、手入れの仕方、また紫外線等による経年劣化で低下します。
また金具類もさびの発生等で強度が低下することがあります。

お客様相談窓口

この説明書の内容、製品の取り扱い等について不明な点がありましたらお買い上げの販売店または下記へお問い合わせください。

販売元：ジェフコム株式会社
〒579－8014　東大阪市中石切町３－１３－１６
TEL ０７２－９８６－５９００
FAX ０７２－９８６－６８５２

製造元:ポリマーギヤ株式会社

墜落制止用器具 取扱説明書 保管用 J

（大切に保管してください。紛失されたときは、当社へ御請求ください。）

弊社墜落制止用器具(胴ベルト型・ランヤード)をご購入いただき有難うございます。本製品は労働安全衛生法第 42 条の規定に基づく「墜落制止用器具の規格」に準拠して製造したものです。
製品を正しく安全にお使いいただくために使用前に必ず本説明書をお読みいただき、よくご理解の上ご使用ください。

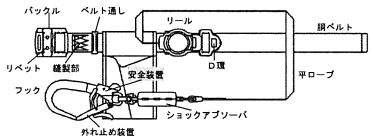
※この取扱説明書はすべての弊社製墜落制止用器具(胴ベルト型安全帯・ランヤード)について説明しています。
※本取扱説明書内の図・形状等はそれぞれ一例を示します。

1. 使用する場所

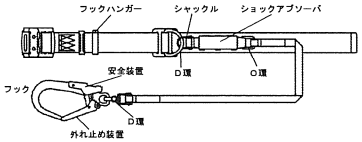
胴ベルト型は作業する箇所の高さが 6.75m 以下の足場のある高所で使用します。作業する箇所の高さが 6.75m 以上の箇所では使用できません。
フックは親綱又は構造物に取り付けてロープ１本で体とつなぎ体重をかけずに使用する「１本吊用」で、万一の墜落を阻止するために使用します。

2. 構造と各部の名前

2.1 巻取り式



2.2 ロープ式



3. 体に装着するとき

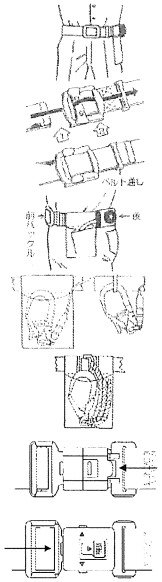
3.1 胴ベルトは腰骨のところに正しくしっかりと締めてください。

3.2 バックルにベルトを通すにはバックル裏側１から表へ通し、２の孔に通して裏側に出してください。
ベルト先端は樹脂製のベルト通しに通してください。

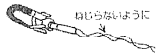
3.3 リール又はD環の位置は体の真横から後ろ側になるように装着してください。

3.4 フックは収納袋又はフックハンガーに正しく収納してください。

3.5 ワンタッチバックルはベルトの長さをあわせた後バックル本体にトングを「カチッ」という音がするまで差し込んでください。
バックル本体にトングを差し込んだ後レバー・ボタンが操作できないようロックされているかまたベルトを引っ張ってロックされているか確認してください。



4. 平ロープの使い方（巻取り式）

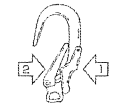


4.1 平ロープはフックを持って必要な長さを出してねじらないように使用してください。

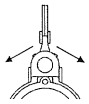
5. フックの使い方

5.1 ２ロックタイプ
２つの安全装置を１、２の順に握って外れ止め装置を開口してください。

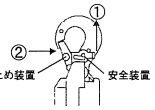
5.2 １ロックタイプ
樹脂製の安全装置ハンドル１、外れ止め装置２の順に握って外れ止め装置を開口してください。



5.3 脱着リール・補助ランヤードの小型フック
左右の外れ止め装置を押し下げて開口して安全帯のＤ環に取り付けてください。

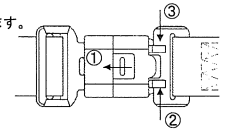


5.4 脱着リールの小型フック
①安全装置・②外れ止め装置の順に操作して開口して安全帯のＤ環に取り付けてください。

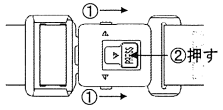


6. ワンタッチバックルの使い方

6.1 N型
①. ②. ③の順に操作すると外れます。



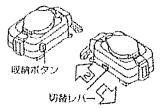
6.2 F型
①. ②の順に操作すると外れます。



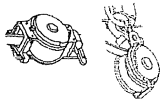
7. リールの使い方

7.1 １ウェイリール
ロープを引き出した時点で巻取りを停止するワンタッチ巻取り式で引き出したロープを巻き取るときは収納ボタンを押してください。

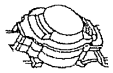
7.2 ２ウェイリール
切替レバーが１の位置のときはワンタッチ巻取り式となりロープを巻き取るときは収納ボタンを押してください。
切替レバーが２の位置のときは自動巻取り式となりロープを常に巻き取ります。



7.3 オートマティックリール
ロープを常に巻き取る自動巻取り式で引き出したロープはボタン操作なしで巻き取ります。

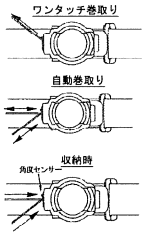


7.4 ロックリール
ロープを常に巻き取る自動巻取り式で引き出したロープはボタン操作なしで巻き取ります。また万一の墜落時に落下距離を最小限にする緊急ロック機構を内蔵しています。



7.5 2ウェイ（ロック）リール

ロープをリールより上向きに引き出すとワンタッチ巻取り式となりこのロープを巻き取るときはいったんロープを引き出してリールに対して水平に巻き取らせるか角度センサーを押し下げてください。
ロープを水平又は下向きに引き出すと自動巻取り式となり引き出したロープは操作なしで巻き取ります。
また万一の墜落時に落下距離を最小限にする緊急ロック機構を内蔵したタイプもあります。



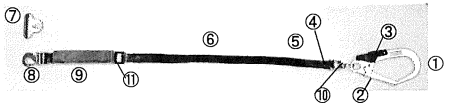
※ご注意ください

ロックリールは、その構造上平ロープをリール内に収納したとき、緊急ロック機構が作動し平ロープが引き出せなくなる現象が、極まれに発生します。
もし、この現象が発生したときは、フックをリール本体より強く引き出した後、再度リール内に巻き込ませて、ロックを解除してください。

8．ランヤードについて

各部の名称

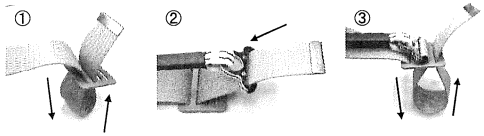
①フック　②外れ止め装置　③安全装置　④シンブル　⑤保護チューブ
⑥ロープ　⑦ＳＤ環　⑧小型フック　⑨ｼｮｯｸｱﾌﾞｿｰﾊﾞ　⑩ｼｬｯｸﾙ　⑪Ｏ環



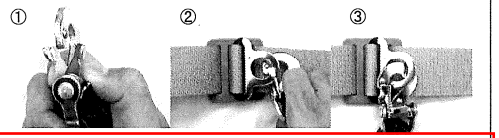
取付け方法

胴ベルトへの取付けは、下記の手順に従って確実に取付けてください

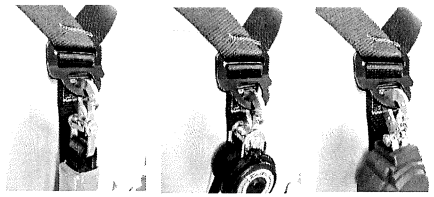
●ＳＤタイプ　下図のようにＳＤ環を胴ベルトに通して、Ｄ環止めで固定してください。



●８Ｄタイプ　下図のように小型フックをＤ環またはＳＤ環に装着してください。



ハーネスへの取付けは、下記のフックの向きで確実に取付けてください



⚠警告　誤った使い方をすると墜落等のおそれがあるのでやめてください▼▼

U字吊り使用につながる恐れがありますので、次の点に注意してください。

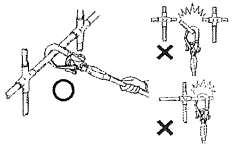
●胴ベルトにＤ環またはＳＤ環を追加して、それにランヤードを取付けないでください。
●ロープ式安全帯（通常のＤ環付）には、ＳＤ環付のランヤードを取付けないでください。元のロープのＤ環に８Ｄタイプを取り付けてください。
●ＷＤ環付安全帯にＳＤ環を使ったランヤードを取付ける場合は、ＷＤ環に「Ｕ字吊り防止用プレート」を必ず取付けてください。

9．使用上の注意事項

⚠危険　誤った使い方をすると墜落等のおそれがあるので絶対やめてください▼▼

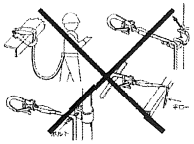
フックは強固なものにかける

●構造の弱いものにはかけない。
●フックが抜けるおそれのあるところにはかけない。
外れて墜落する危険があります。



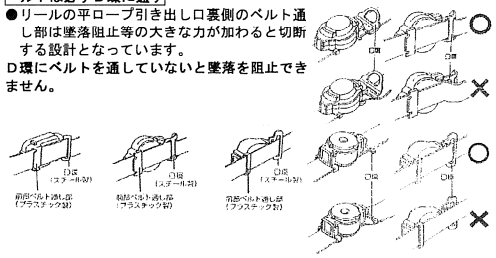
鋭い角にロープをかけない

●鋭い角に直接かけない。
●墜落時鋭い角に触れるおそれがあるところに絶対かけない。
墜落時ロープが切断することがあり危険です。



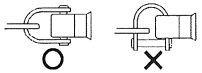
ベルトは必ずＤ環に通す

●リールの平ロープ引き出し口裏側のベルト通し部は墜落阻止等の大きな力が加わると切断する設計となっています。
Ｄ環にベルトを通していないと墜落を阻止できません。



シャックルの向きに注意

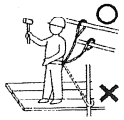
●向きによっては強度が低くなります。
墜落時に切断することがあり危険です。



⚠警告　誤った使い方をすると墜落等のおそれがあるのでやめてください▼▼

フックは腰より高いところにかける

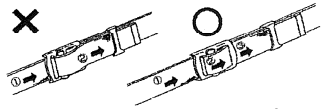
●腰より低いところにかけない。
万一の墜落時に落下距離が長くなり大きな衝撃荷重がかかり思わぬ事故の原因になります。



バックルに正しくベルトを通す

墜落時に胴ベルトがバックルから抜けて事故の原因になります。

○スライド式



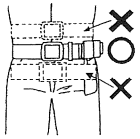
○ワンタッチ式

バックル本体の孔の裏からトングバーの孔に通さずに表へ出して折り返し、トングバーの孔と本体の孔に通して裏へ出し、ベルト通しに通してください。

バックル本体の孔の裏からトングバーの左の孔に通して表へ出して折り返し、トングバーの右の孔と本体の孔に通して裏へ出し、ベルト通しに通してください。

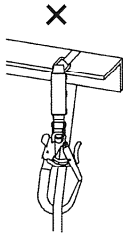
胴ベルトは腰骨のところにしっかりと締める

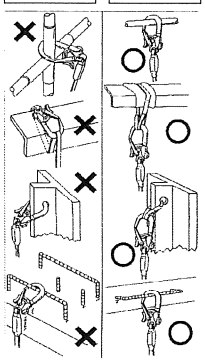
●上の方に締めると墜落時内臓を圧迫することがあります。
●下の方に締めると墜落時足元に抜けて事故の原因になります。



フックは正しくかける（図は一例）

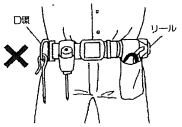
万一の墜落時に誤ったかけ方をしているとフックが曲がったり、外れ止め装置が破損しフックが外れて事故の原因になります。
ロープのフック側にショックアブソーバのある製品ではその作動を妨げることがありますので「回し掛け」で使用しないでください。





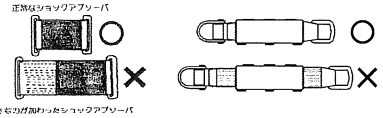
改造・分解しない

Ｄ環を追加したりしてＵ字吊りができるようにしない。
また自分で改造や分解すると本来の性能が発揮できず事故の原因になります。



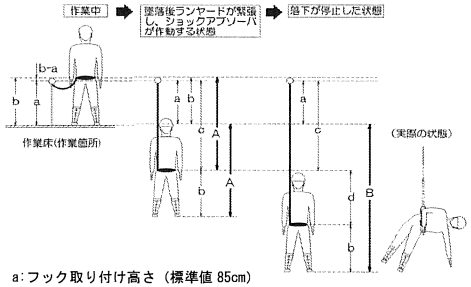
一度でも大きな力が加わったものは使用しない

再使用すると万一の墜落時に大きな衝撃が加わり事故の原因になります。



落下距離の確認　※胴ベルト型の場合

下図の内容をご理解の上、作業箇所ごとに確認してからご使用ください
必ず実際に作業する箇所の下にショックアブソーバに記載された「落下距離」以上の空間があることを確認してから、使用してください。



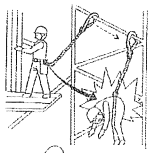
a：フック取り付け高さ（標準値 85cm）
b：Ｄ環の高さ（標準値 95cm）
c：ランヤード長さ
d：ショックアブソーバ、胴ベルト、ランヤードの伸び
A：自由落下距離（ショックアブソーバに記載※）
（ランヤードが伸びきってショックアブソーバが作動する落下距離）
B：作業床からの落下距離（ショックアブソーバに記載※）

感電に注意

ロープは雨等で水分を含むと導体となりますので電線に触れると感電することがあります。

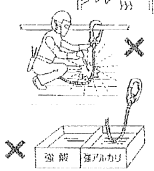
振子にならない、滑らないところにフックをかける

万一の墜落時、壁・柱等に衝突して事故の原因になります。



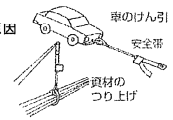
高熱・薬品等に注意

ロープ、ベルト、縫糸等が強度不足になり事故の原因になります。



人体の墜落防止以外の用途に使わない

損傷などによる強度不足から思わぬ事故の原因になります。



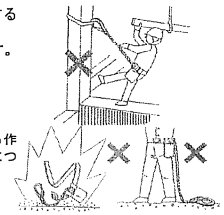
親綱の１スパンの使用者は１名とする

墜落の衝撃で親綱がたわんで、他の作業者が引っ張られ同時に墜落するおそれがあります。

⚠注意　安全にお使いいただくために守ってください▼▼

体重をかけない

●万一の墜落を阻止する目的でのみ使用する安全帯です。
体重をかけると思わぬ事故につながります。



投げない、引きずらない

金具類が変形したり、砂などの付着による作動不良やロープの磨耗等から思わぬ事故につながります。

急激な移動をしない（緊急ロック機構内蔵リール）

緊急ロック機構は平ロープの引き出し速度に反応しますのでフックを取り付けた状態で飛び移ったりするとロック機構が作動し思わぬ事故につながることがあります。

同一メーカーの部品を使用する

違うメーカーの部品を組み合わせて使用すると本来の性能が発揮できず思わぬ事故につながります。

工具などを胴ベルトに差さない

●腰袋、工具差しに入れてください。
万一の墜落時に体を傷つけ思わぬ事故につながります。

保護チューブ・カバーを引っ張らない

ロープの縫い付け部・編み込み部の保護チューブおよびショックアブソーバのカバーは、引っ張ると抜けますので、これを引っ張らないでください。